

兵庫・辻井遺跡

- 1 所在地 兵庫県姫路市辻井字東藤ノ木・西藤ノ木
- 2 調査期間 一九八二年(昭57)四月～一二月
- 3 発掘機関 姫路市教育委員会
- 4 調査担当者 山本博利・秋枝 芳
- 5 遺跡の種類 寺院跡
- 6 遺跡の年代 白鳳時代～平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(龍野)

遺跡は姫路城の西北に位置し、古夢前川の形成した沖積平野に所在する。標高は一九m前後である。辻井字西藤ノ木に巨大な塔心礎が遺存しており、さらに里道を隔てて字東藤ノ木の水田中にも以前に土壇が残存していた。これらの両字名が本来は「西塔ノ基」、「東塔ノ基」であったものが、長い間に変化したものという推測から、薬師寺式の伽藍配置が考えられていた。

また、『播磨風土記』の記載によれば、巨智里草上村および韓室里辺りの田の開墾に百済系の渡来氏族巨智氏等の活躍が窺えることから、遺跡はこれらの豪族の氏寺の可能性も十分に考えられる。

調査は安室バイパス新築に伴って、遺跡北半部を中心に実施した。寺院址については、掘立柱建物跡一棟、溝、土坑、井戸、土壇墓等の遺構が検出された。建物はすべて方形掘り方を有する掘立柱形式のもので、礎石建物は皆無である。とくに、東西一三間、南北二間で、南庇付の建物(二七・六m×六・六m)は主要建物と推定される。

木簡は調査区中央部西北隅から検出された井戸内より出土した。井戸の掘り方は約三m方格で、深さは約三・五mである。井戸は一辺約〇・九mの方角の木組で、底に水溜用に楕円形の曲物を据えていた。井戸廃絶時に多量の土師器・須恵器が遺棄されていた。とくに、「力」・「夫」・「大井」・「大夫」・「米」・「丈」等の墨書土器が出土したことは注目されよう。さらに、井戸祭祀に使用されたと推定される斎串、ミニチュア製の砦、丹彩鉄斧が出土した。木簡は井戸底付近で三点出土したのみである。

井戸裏込め出土の須恵器より、井戸の構築時期は奈良時代前半に比定され、井戸放棄は上層の一括資料より、奈良時代末と推定される。

調査の結果、僧房跡と推定される長大な東西棟を有する建物跡と、

現存塔心礎との位置関係から、薬師寺式の伽藍配置を再考せざるを得なくなつた。

8 木簡の积文

(1)  170×27×2 051

(2)  (247)×17×2 081

(3)  × (180)×(27)×3 081

9 関係文献

姫路市教育委員会『辻井遺跡現地説明会資料』(一九八二年)

(山本博利・秋枝 芳)